

様々の心づかひにやつれて、忽乳も細く成たる上、四五日ありて、孝順君なくならせ給ひければ、翁が寸志空しくなりて、娘も宿へ下りぬ、

〔諸例類纂二〕一乳母穢多之娘 食穢七十日

享和三亥年二月、武田河内守殿被抱候處、右乳母穢多之娘之由、此節相知町奉行へ御引渡之筋

ニ可有之哉と御問合、小田切土佐守殿へ河内守殿より有之候處、穢多之義、仕置は彈左衛門取

計候筋ニ候間、彈左衛門方へ其段申遣候様被申聞、彈左衛門へ申遣候處、門前拂被成候而可取

計旨御請申候ニ付、○中略

當時武田兵庫家、武田河内守、寛政中ハ普請支配、小田切土佐守ハ寛政四方町奉行たり、依而享和元なるべし、

多産賜乳母

〔續日本紀文武〕三年正月壬午、京職言、林坊新羅女牟久賣、一産二男二女、賜繩五疋、綿五屯、布十端、稻五百束、乳母二人、

〔續日本紀文武〕慶雲四年五月癸丑、美濃國言、村國連等志賣、一産三女、賜穀四十斛、乳母一人、

〔續日本紀元明〕和銅元年三月庚申、美濃國安八郡人、國造千代妻加是女、一産三男、給稻四百束、乳母一人、

一人、

〔續日本紀元正〕靈龜元年十二月己未、常陸國久慈郡人、占部御蔭女、一産三男、給粮并乳母一人、

養老元年六月己巳朔、右京職言、素性仁斯、一産三女、賜衣粮并乳母一人、

乳父

〔禁秘御抄中〕一被聽臺盤所之人○中略

御乳父人、必聽御外舅勿論、乳父子一人など、は聽院○後鳥羽御時、高能新院○土隆衡、當時○順範朝類

也、崇徳後白川御時、實行兄弟不及左右、又高倉院御時、時忠、院信清、當時範茂ナド、雖難比彼等聽之、

○中略信清以時權勢參入、定輔乳父範光、資實、光親有雅範朝、範茂皆有謂、然而濟々無極、○中略院御時